



心をつないで、  
ふるさとを支えたい。

# IWATE BANK NEWS LETTER

平成 25 年 3 月 4 日

株式会社岩手銀行

株式会社北日本銀行

## ～いわて産学連携推進協議会（リエゾナー I）への取組み～

### 第 10 回リエゾナー I 研究開発事業化育成資金贈呈について

岩手銀行（頭取 高橋真裕）、北日本銀行（頭取 佐藤安紀）では、両行が参画する「いわて産学連携推進協議会（リエゾナー I）」の主な活動として取り組みしている「リエゾナー I 研究開発事業化育成資金」贈呈事業について、第 10 回となる今年度の贈呈先が決定しましたのでご通知申し上げます。

#### 記

#### 1. いわて産学連携推進協議会について

- (1) 「いわて産学連携推進協議会（リエゾナー I）」は、大学のシーズ（新たな技術など）と企業のニーズをマッチングさせることにより新事業の創出を図ることを目的に、平成 16 年 5 月に設立しました。現在では 3 金融機関と 10 研究機関が参画しています。
- (2) 主な活動は、「リエゾナー I マッチングフェア」の開催、岩手県内の金融機関による「リエゾナー I 研究開発事業化育成資金」の贈呈、「研究シーズ集」の発行などです。

#### 2. リエゾナー I 研究開発事業化育成資金の贈呈について

##### (1) 創設目的

- ① 企業等が有する技術開発・商品開発のニーズと大学等有する高度な技術研究成果とを共同研究等を通じマッチングさせることにより、中小企業の「高付加価値」を通じて「事業の多角化」や「新たなビジネス創出」を積極的に支援するものであります。
- ② また、この育成資金を呼び水として、大学等にある「事業の芽」「技術の種」を企業等が事業化に向けて研究開発に積極的に取組むことを期待するものでもあります。

##### (2) 対象先

- ① 「リエゾナー I」参画の研究機関との共同研究により新たな事業化を目指している企業等で、企業等の所在地域は、岩手県、青森県、秋田県、宮城県とします。
- ② なお、地域の中小企業支援の観点から、証券取引所上場会社およびそのグループ企業等は、原則として応募できません。

##### (3) 贈呈金額

- ① 年間贈呈額 1,500 万円を上限とします。
- ② 1 先あたり 200 万円を上限とします。

### 3. 今年度の贈呈について

- (1) 『第10回リエゾナー I 研究開発事業化育成資金』贈呈先一覧」別紙のとおりです。
- (2) 今年度は9社に1,200万円の贈呈をおこない、これまでの贈呈先数金額は、延べ59社に8,100万円となりました。
- (3) 贈呈式の開催

平成25年2月18日に岩手大学構内（コラボMIU）で行なわれ、金融機関を代表して岩手銀行高橋頭取より9社の代表者に目録の贈呈および認定証の授与をおこないました。

【贈呈式の様子：受賞企業の代表者とリエゾナー I 支援機関との記念撮影】



＜本件に関するお問合せ先＞

岩手銀行地域サポート部：吉田 電話019-624-8427

北日本銀行営業統括部：浅沼 電話019-626-6468

**岩手銀行**

総合企画部／〒020-8688 岩手県盛岡市中央通1-2-3 TEL.019-623-1111（代表）

## 第10回

## 「リエゾン－I 研究開発事業化育成資金」

## 贈呈先一覧

(平成25年2月18日贈呈)

## ○株式会社浅沼醤油店

代表者：代表取締役 浅沼 和男

住所：岩手県盛岡市中ノ橋通一丁目8-2

事業計画名：岩洞湖のワカサギを原料とする魚醤油の開発

共同研究者：岩手県工業技術センター 食品醸造技術部 上級専門研究員 畑山 誠

計画の要約：伝統的な魚醤油は、生臭く、塩分が高いということから市場に受け入れられにくい調味料であった。本研究では、岩洞湖のワカサギを題材にし、生臭くない、塩分の低い魚醤油の開発ノウハウを得ることを研究テーマとし、また、本研究の成果として開発した商品を蘆川地区の新たな特産品として活用することで、地域貢献に役立てていくことを目標に取り組んでいる。

贈呈金額：150万円

## ○有限会社藤原アイスクリーム工場

代表者：代表取締役会長 藤原 誠市

住所：岩手県盛岡市若園町3-10

事業計画名：新型ミツバチ巣礎の開発とその活用によるミツバチ巣箱におけるダニ発生率の減少効果の実証

共同研究者：岩手大学 農学部 教授 佐原 健

計画の要約：ミツバチ大量死滅の最大要因とも言われるミツバチヘギイタダニを、薬剤を使用しない簡便な方法で抑制・排除し、健全な群を維持することで、蜂蜜、その他の生産物の安定的増産が可能な養蜂システムを確立する。このダニは、雄蜂への寄生嗜好性が高い。その特性を利用し、独自性のある雄蜂専用巣礎（巣構築の基礎）を導入し、ダニをトラップ・排除する技術開発を行う。また、独自性のある働き蜂専用巣礎によるダニの排除の技術開発もあわせて行う。

贈呈金額：150万円

## ○株式会社川喜

代表者：代表取締役会長 川端 實

住所：岩手県釜石市定内町3丁目12-18

事業計画名：そば粉などに対する日本ワサビひげ根の静菌効果

共同研究者：岩手大学 農学部 教授 三浦 靖

計画の要約：当社は自社栽培している和山高原そば畑から収穫する玄そばを乾燥・製粉・製麺し、主に関東圏に出荷している。そば粉の生菌数の制御の手段として、風味を損なう酒精に変わり、日本ワサビひげ根紛体をそば粉に数%添加し、蕎麦の風味を維持したままそば中の微生物増殖を抑制するという技術を共同開発し、安全性を高めた商品化を目指している。

贈呈金額：150万円

## ○久慈琥珀株式会社

代表者：代表取締役社長 向 正彰

住所：岩手県久慈市小久慈町 19-156-133

事業計画名：久慈琥珀粉末の高品位で効率的な新成形技術の開発

共同研究者：岩手大学 工学部 准教授 清水 友治

計画の要約：当社の主な商品は琥珀のアクセサリーであるが、景気の影響を受けやすい商品であることから、安定した売上を確保するために文具商品の製造を行った。しかし、1年を通じて文具商品の受注に対して生産が追いつかず、欠品する状況が続いた。そこで、原料の効率化と生産性の向上のために、共同研究による新技術の開発を行った。今後は新技術を生かした商品作りと、国内・海外に向けて新規販路の拡大を考えている。

贈呈金額：150万円

## ○有限会社北三陸天然市場

代表者：代表取締役 小笠原 ひとみ

住所：岩手県久慈市長内町 29-29-5

事業計画名：高品質な魚介乾製品を高効率で製造する方法及び製造技術の開発

共同研究者：岩手大学 農学部 教授 三浦 靖

計画の要約：岩手大学の有する水分活性調整、脂質酸化防止、低温除湿乾燥の研究データと理論を活用し、従来販売先からニーズの高かった10℃の冷蔵流通で5日以上賞味期限と、健康志向の消費者をターゲットとして、塩分を控えた高品質な魚介乾製品を、効率よく経費を抑えて製造可能とすることを目標に取り組んでいる。

贈呈金額：150万円

## ○株式会社ピーアンドエーテクノロジーズ

代表者：代表取締役 藤原 貢

住所：岩手県盛岡市永井 16 地割 13-1 小笠原ビル 2F

事業計画名：循環・呼吸の遠隔解析モニタシステムの研究開発

共同研究者：岩手医科大学 情報科学科医用工学分野 教授 三田 光男

計画の要約：患者の呼吸状態を把握して急変の早期発見や処置効果を客観的に評価する手段が、医療や介護の現場で必要とされている。そういった問題に対する三田教授の研究結果により、循環器検査で採取する心電図波形から呼吸の情報を抽出できる事が判明した。本研究ではこの理論に基づいて、通常循環器の診察にしか用いられない心電図により呼吸器の診察も可能になる心電図解析機の開発を目指している。

贈呈金額：150万円

## ○工藤建設株式会社

代表者：代表取締役 工藤 一博

住所：岩手県奥州市水沢区真城字北館 38-1

事業計画名：間伐材を活用した木質系断熱材の開発

共同研究者：岩手大学 農学部 教授 関野 登

計画の要約：未利用資源である間伐材を利用した木質系断熱材を岩手大学と共同研究にて開発している。海外では、シックハウスの問題もあり、環境志向の観点から有機天然系（木質系）の断熱材のシェアが急激に伸びてきている。本断熱材は従来の木質系断熱材であるセルローズファイバーとは大きく異なり、木材を直接繊維状にしてそのまま断熱材として使用するものであり、現在熱伝導率や吸放湿性などの試験を評価中である。

贈呈金額：100万円

## ○有限会社盛岡原田

代表者：代表取締役 原田 新平

住所：岩手県盛岡市みたけ5丁目14-15

事業計画名：折板屋根用線材雪止の最適な構造設計に関する研究

共同研究者：岩手大学 工学部 准教授 西村 文仁

計画の要約：当社では、既に関販売している線材を使用した住宅用雪止の技術を応用し、工場や倉庫などの折板屋根に設置する線材雪止を開発している。従来製品に比べデザイン性を重視しているが、構造上の安全基準設定値や耐荷重値の設定も販売戦略上重要となっている。科学的根拠を持った数値を導出する為、岩手大学と共同研究を進めている。上記研究によりオーバースペックだった構造を見直し、製作コストの改善にもつながると考えられる。

贈呈金額：100万円

## ○株式会社岩手東京ワイヤー製作所

代表者：取締役社長 山田 洋義

住所：岩手県奥州市前沢区古城字高大寺69

事業計画名：救命救急時の緊急四肢切断用ギグリソーの開発

共同研究者：岩手医科大学付属病院 岩手県高度救命救急センター 助教 秋富 慎司

計画の要約：救命救急時の緊急四肢切断用ギグリソーの開発は、当社の保有する金属伸線技術を活用し、共同開発を行ったものである。ギグリソーとは、救命現場で使用するワイヤー型ののこぎりで、現在は強度、切れ味の面で問題を抱えている。本開発により約2倍の性能を実現し、当社は本製品をきっかけとした医療機器産業への参入を目指している。

贈呈金額：100万円

以上